# 京城新報

●購讀料 ▲一ヶ月前金[illegible] ▲三ヶ月前金[illegible] ▲六ヶ月前金[illegible]
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 三月十六日
發行編輯兼印刷人 山下英爾
京城西署西小門通
發行所 京城新報社 電話六六三番

## 韓國に働きたる人物 其十

(現駐淸公使男爵林權助) 上

▲林權助、名は能登か越中邊から出て來た飯炊の襟であるが、今では男爵の華族樣である、而も駐淸公使で外交官仲間の中利きである、

▲韓國に駐在したる我公使中では渠が一番長く、其働もまア一番だらう、渠は加藤增雄の後に來た、明治三十二年より三十八年まで居た、足掛七年の駐在だ、韓國駐在公使では之か一番長いのである、

▲渠の生れは會津であるが、故あつて幼時鹿兒島に引取られそこで育つたのである、それでも何處かに會津の坊の面影が殘て居る、傲然として容易に人に降らぬ稜たる氣性即ち會津武士の面影が多少ある、狷介にして他を容るゝ雅量のないのは渠の缺點であらう、併し雅量はないが官界に長く居る故に長上に對する秘訣は心得て居たようだ

▲渠も赤門出身外交官の中では錚々たるものである、同期卒業生には林田龜太郎、內田康哉などいふ强の者もあるが、其中で林權助は好い方である、智に於ては內田が林に一日の長あるも、豪毅なる點に於ては林は內田に一日の長あり、未來の榮達は却て林にあるかも知れぬ、

▲渠が韓國に公使として來る、ズット以前仁川に領事として在任したことがある、故に渠は韓國には淺からぬ關係がある、亦た英國倫敦の領事をもした、併し此時分には何人も林權助なる名に注意を拂つたものはない、渠が手腕の多少認められたるは、通商局長の時である、

▲渠が通商局長たるときは、內田康哉が政務局長であつた、双方互角の勢であつた、由來政務通商兩局長は腕のあるものには隨分揮へる所である、從て茲が立身の最も登りよき階梯である、若し次官が蘇鈍であれば、次官の職權を亂用することが出來る、今の山座圓次郎が政務局長で省中飛ぶ鳥を落す勢あると云ふのが茲だ、林權助も此時に手腕を發揮した、

▲加藤增雄の跡釜をあれかこれかと、種々詮定があつて、彼の傲岸で利かぬ氣の林が或は良いから知れぬと云ふので、トウ／＼御鉢が廻て、京城は南山の殿樣となつたわけである、當時渠の得意は思ふべきであつた、

▲其證據には渠の令夫人が子供に言ひ聞かせるのに、朝鮮に來て居る日本人の中では內のお父樣が一番ゑらいのだと、無邪氣なる小供は之を遠慮なく喋つて意張るのである女は虛榮心が强いから渠の令夫人が之を鼻にかけて居るのが何人にも讀める、此事は當時居留地の一ツ噺であつた、併し渠が仁川領事時代には、謙遜でなか／＼貞淑なる夫人であつたと云ふことだ、(未完)

## ●二將軍の決闘

(三月十八日露都發報)

フォーク將軍對スミルノフ將軍の決闘は今朝騎馬聯隊の乘馬學校屋內に於て執行せられたり此の決闘に就ては十分成規の式に從ひ同聯隊の上級士官等の同意と奬勵を得たるものなり

本日の決闘はフォーク將軍が將に爲さんとする二組の決闘の第一番なり其の原因は旅順開城に就てステッセル、フォーク、レイス、スミルノフ諸將軍に對する軍法會議に於てスミルノフの證言がフォークの感情を害したるに由る即ち同公判の進行中スミルノフ將軍は旅順防禦に關する秘密覺書を判官に提出したることを意趣と爲せるなりフォークは思へらくスミルノフの言は實に我が名譽を毀損するものなりと茲に於てかフォークより決闘を挑むに至りしなり

決闘は恰も盛裝行列の如く花々しく行はれたり騎兵聯隊の司令官は乘馬學校を決闘の場所として貸與せしがこの事件の風說聞ちにして陸軍部內に知れ渡り午前十時前に乘馬學校は既に多數の軍人及び兩將軍の朋友等を以て充たされぬ中には露國宮中の女官數名も交り居り文官と共に棧敷に座を占めたり

斯る所へスミルノフ將軍の介添人たる國會議員にして義弟に當るウラジミル、プリシコウイッチ氏及びシェルッ海軍大佐出で來りフォーク將軍の介添人としてはステッセルの副官たるシドー大尉及びボーグルスキー中尉亦出で來れり此等の介添人は各手に武器を持ち地面を測量して決闘の場所を定めたり

スミルノフ將軍は決闘に用ふる武器を短銃と選定したり

時計將に十時を報せんとする時二將軍は乘馬學校內に現れ相對して十五歩を距て一禮をもせず直立せり雙方共今日を晴れと美々しき軍服を裝ひ有らゆる勳章を胸間に帶びたり露國決闘法の師範たるキレーエフ將軍は仲立人となれり同將軍が「擊て」との號令を發するや雙方同時に短銃を發射して何れか殪るゝまで續行する定めなりき

第一發の交換には雙方何等の傷をも負はざりしが第二發に於てフォークの上衣は腰の邊に穴を穿たれしも身體には害を受けざりき第三發は同樣孰れにも無害なりき此に至りスミルノフ將軍は氣を焦ち中立人より未だ號令のかゝらざる先きに短銃を發射したり此れを見てフォーク將軍は敵の過誤に乘ずるの卑怯を避けて其の發射を差控へたるがキレイエフ將軍第四回目の號令を下すや忽ち二箇の銃聲と共にスミルノフ將軍は低き呻き聲を漏して前にのめりたり而してフォークは何等の傷なし介添人は直に決闘を中止しぬ血は滾々としてスミルノフの衣服を浸せり立會ひ居たる醫官は擔荷を持來りてスミルノフを此れに乘せ附近の陸軍病院に搬入せりフォーク將軍は神色自若として友人等の祝辭を受くべく立去れり

病院に於てスミルノフの身體を檢せしに右の下腹に彈丸の打ち込まれたるを見る醫官は探りを入れたれども其所在判明せずエッキス光線の助けを借りて漸く其の所在を慥めしがスミルノフの容體頗る弱りたれば施術することを危險なりとせり夕刻病院よりの報に據れば同將軍の傷は生命に關すべしとフォーク將軍はこの次今一度旅順防禦軍西方正面の司令官たりしゴルバトフスキー將軍と決闘する筈なり同將軍は軍法會議に於て最も峻烈なる批評を加へたるものなりこの決闘の時日は未だ定まらずスミルノフ將軍は露土戰爭に於て「七つの惡魔」と渾名せられたる程の剛勇にして旅順降伏に反對しステッセルの開城は其の責大にフォーク將軍の無能にありと云ひ居たり彼は最初フォーク將軍の挑戰を拒みたれども終に此に至りしなり

## ●米國兵隊の話

日本では兵役は國民の義務で之に服するのを名譽の最上として居が米國の兵隊は雇人で政府との契約で何ヶ年軍役に從事します給料は一ヶ月何程戰病死した場合には云々と早く云へば藝娼妓の稼契約見た樣になつて居る▲服役契約は陸軍は一期が三年で其內二年は外國勤務に服し海軍は一期四ヶ年であるが給料次第で應募超過も不足も生ずる▲先づ水兵から說明すると階級は三つに分れて居る、第一は一本筋のランチマンで俸給は一ヶ月十六弗(我三十二圓)第二は二本筋のヲーニミーマンで二十弗、第三は三本筋の所謂シーマンで二十弗を貰つて居るが其上には腕に山形が二本入つて其下に稀々の模樣をつけた下士、尚其上には准士官が居る、准士官になると大抵は二十弗以上である、陸軍の兵卒は品行と技術とでバッド、グッド、ベリーグード、エキセレントなどゝ稱へ給料は十七弗から三十五弗位、下士は四十五弗から七十五弗、將校は少尉で百五十弗、少佐で二百五十弗以上である▲被服は將校下士は勿論、兵卒でも最初冬夏のもの二揃だけ貰ふ外は帽子も靴も一切自辨で陸海軍とも司計官が萬事世話を燒く必要なものは之を賣渡して月末に俸給から引去るのだが惡い司計官だと粗惡の品を渡して私腹を肥やすことなどは珍らしくない又食料は一ヶ月九弗(水兵)で御馳走がないと時々賄征伐をやつゝける▲陸軍といはず海軍といはず彼等の惡戲は有名なものであるが性質は淡泊で愛すべきものがある、同じ水兵でも英國のやうに橫柄雜拗でなく又佛國のやうに陰險でない、喧嘩をするにしても米兵のは皿の上のパンなどを引摑み敵手の橫面へ投げつける式だが、佛國や英國の水兵になると其場はソッと外して後からナイフ三昧に及ぶといふことになる、シカシ米國の兵隊は餘り香氣過ぎる、酒を呑んで路傍に寢そべる位は何でもない、時によると艦內で賭博をやる、監督巡回がやつて來ると手を捕へて仲間に引入れる、又は上陸水兵の歸艦が遲るとて本艦から巡捕が出る、泥醉の一群と逢ふて誰何するぞ『オー貴樣だつたか』といふ式で巡捕先生を取圍んで飲直しをする、そこで更に巡捕の巡捕が出るといふ有樣、マアそれはいゝとして彼等は酒を煽ると飛んでもない惡戲を仕出かす、逐ひ此間のこと長崎へ上陸した一水兵は向ふから自用車を飛ばして來た某老紳士を道の眞中へ橫樣に轉覆返し一時氣絶せしめた、シカも水兵は傍に佇立してニコ／＼として居る、警察へ引致して理由を聞くとナアーニ車が餘り輕く走るので面白半分に一寸橫を押して見た始末さと許り、惡戲もかうなると罪になる▲けれども彼等は至つて錢放れがよい車賃など他國の兵と違つてケチ臭く直切らぬで米國御用船の長崎入港期日は同地居留地車夫の米代延期日が拂日かになつて居る位である

## ●三月中京城物價表(二)

| | | | |
|---|---|---|---|
| 麥酒(札幌四打入) | 同 | 九、六五〇 | 九、八〇〇 |
| (旭 同) | 同 | 九、六五〇 | 九、八〇〇 |
| (ビース同) | 同 | 一〇、八〇〇 | 一〇、八〇〇 |
| 平ノ水(四打入) | 同 | 四、三五〇 | 四、三五〇 |
| コンデンスミルク | 同 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 |
| 福神漬(四打入) | 箱 | 七、四〇〇 | 七、四〇〇 |
| パイナップ(二ポンド入) | 同 | 六、一〇〇 | 六、一〇〇 |
| 罐詰 鮭(同) | 同 | 八、七〇〇 | 八、七〇〇 |
| 筍(同) | 同 | 五、九〇〇 | 五、九〇〇 |
| 鶏(四打入) | 同 | 二四、〇〇〇 | 二四、二〇〇 |
| 松茸(同) | 同 | 九、二〇〇 | 九、八〇〇 |
| 鰹(同) | 同 | 八、八〇〇 | 八、八〇〇 |
| 鰯(同) | 同 | 八、八〇〇 | 八、〇〇〇 |
| 砂糖 エスピー四温 | 担 | 九、六〇〇 | 九、二〇〇 |
| スアール同 | 同 | 九、二〇〇 | 九、〇〇〇 |
| ツクス三温半 | 同 | 八、四〇〇 | 八、三〇〇 |
| 鍵甲イー同 | 同 | 九、四〇〇 | 九、〇〇〇 |
| 麥粉 東郷印 | 袋 | 二、四五〇 | 二、六〇〇 |
| 菊水印 | 同 | 二、四三〇 | 二、六〇〇 |
| △金物類及原料 | | | |
| 浪板 亞鉛板八尺 | 枚 | 一、三三〇 | 一、三三〇 |
| 同 同七尺 | 同 | 一、一三〇 | 一、一三〇 |
| 平板 亞鉛引三尺 長六尺 | 同 | 一、一三〇 | 一、一五〇 |
| 針金 同八十四斤入 | 百斤 | 八、四〇〇 | 八、四〇〇 |
| 同 同十一番線 | 丸 | 八、八〇〇 | 八、八〇〇 |
| 同 同十二番線 | 同 | 九、六〇〇 | 九、六〇〇 |
| 土工用片ツルハシ | 打 | 三、五〇〇 | 三、五〇〇 |
| 同 兩ツルハシ | 同 | 一五、五〇〇 | 一五、五〇〇 |
| 鐵(平均) | 百斤 | 七、八〇〇 | 七、八〇〇 |
| 鐵板(厚四八モノ一分) | 枚 | 九、〇〇〇 | 九、〇〇〇 |
| 同(厚七厘四八モノ) | 同 | 七、八〇〇 | 七、八〇〇 |
| 同(六枚モノ) | 束 | 七、五〇〇 | 七、五〇〇 |
| 同(七枚モノ) | 同 | 七、四〇〇 | 七、四〇〇 |
| 同(八枚モノ) | 同 | 七、五〇〇 | 七、五〇〇 |
| 半鐘(八寸) | 個 | 三、五〇〇 | 三、五〇〇 |
| 同(七寸) | 同 | 一五、五〇〇 | 一五、五〇〇 |
| 同(六寸) | 同 | 三、一〇〇 | 三、一〇〇 |
| 同(五寸) | 同 | 八、〇〇〇 | 八、〇〇〇 |
| 號鐘(八寸) | 同 | 一六、〇〇〇 | 一六、〇〇〇 |
| 同(六寸) | 同 | 五、八五〇 | 五、八五〇 |
| 鑄物火鉢福壽形(尺) | 同 | 一、三五〇 | 一、三五〇 |
| 同 同(九寸) | 同 | 一、一五〇 | 一、一五〇 |
| 同 讚岐形(尺) | 同 | 一、三〇〇 | 一、三〇〇 |
| 馬具 極上等(四號付鵬品共) | 組 | 三〇、五〇〇 | 三〇、五〇〇 |
| 同 三號同 | 同 | 二三、五〇〇 | 二三、五〇〇 |
| 同 (並) | 同 | 一〇、五〇〇 | 一〇、五〇〇 |
| △紙類の部 | | | |
| 半紙 生漉改良 | 個 | 二八、五〇〇 | 二八、五〇〇 |
| 同 二九入上 | 同 | 三五、〇〇〇 | 三五、〇〇〇 |
| 同 中 | 同 | 三三、六〇〇 | 三三、六〇〇 |
| 美濃紙 改良一九入上 | 同 | 三〇、〇〇〇 | 三〇、〇〇〇 |
| 同 中 | 同 | 二六、〇〇〇 | 二六、〇〇〇 |
| 同 下 | 同 | 二四、〇〇〇 | 二四、〇〇〇 |
| 洋紙ゴロス四六判 | 磅 | 一三五 | 一三五 |
| 神戸紙 | 同 | 一、二〇〇 | 一、二〇〇 |

## 讀者文壇

短詩小曲　ふじ川梅月

○
春の風、いゝ、そよ／＼と吹く、
雲雀も揚る、桃の花ちる。
束髪の、白いリボンの、
二つの羽根が、いゝいゝ、ひら／＼と舞ふ。

○
白帆遠く、落日の海、
漁舟いそぐ、磯の夕暮れ。
寄てはさわぐ、岩間の波々、
咲けば亂るゝ、潮の花。

○
雨戸の響、いゝ、から／＼と啓く。
群ら鷗遠く、浪低う飛ぶ。
髪のほつれの、朝風にゆらぎて、
別莊の女、欄に倚垂るゝ。

○
いゝ、しと／＼と、小雨に暮れて、
港の町や、三味戯るゝ。
美容の艶姿、愛妓立ち舞う、
夜の花や、燭にかゞやく。

○
姫の小間使、年まだ若く、
化粧も見ねぬ、頭髪も飾らず。
華美を誇る、姫の書齋に、
いゝ、つく／＼たもふ、追思の涙。

○
軒の滴く、とゞみなく、
今朝もまた、雨の音きく。
坪庭の、荒れたるまゝに、
ケナリーの花、雨に咲く。

## 小說 絃のみだれ (百十八)

永井櫻園

云はれて、た縫は寢所に往き、山田は戶締などして后、やがて床に就いた。

山田夫婦は床に就いた後も、差迫つた金子の成否を案じ煩らひ、兎や角と語り合つた後、眠に就いたは二時過ぐる頃であつた。

翌朝はまた夙く起きて、昨夜繪畫を預け置いた某家へ出掛けた、道すがら心に成効を祈つて、行合ふ人も、凍て切つた朝景色も、納豆賣りの寒さうな聲も、總て目にも映じなければ、耳にも入らぬのである。

た縫は、また良夫と共に起き出でゝ、朝餐を進めなどして、良人の出て往つた後は、獨り突然として火鉢の傍に座り、只管良人の金子を持ち歸るを念ずると共に、若や金子の調達なかつた節は、無情な養父は、否が應でも、自分を連れ歸ると云ふに相違ない、が、可愛い幼兒を棄て、戀しい良人を棄てゝ、何どて歸つて往かれるものか、と云つて歸つて往かねば、手暴な事しても必然連れ行くに相違ないが、然うなつた時は余何すれば可いであらう、吁々窮つた事になつて來た。どうか金子が手に入つて下れゝば宜いと、千々に心を碎きつゝ、一時も早く良人の金子を持つて歸つて來る、笑顏が見たいと、その歸宅のみ首を伸して待つのであつたが、時計は容赦なく進むで九時拾時、拾一時、十二時の午砲を聞いても、歸つて來ない、やがて一時を打ち、二時を打つてもまだ歸つて來ない、扨は昨夜預けて置いたと云ふ口も、矢張駄目であつたのであらう、でなければ、今頃時分まで歸つて來ぬ理が無い、その口が外れたら、この節季押詰つてから到底五十圓と云ふ纏つた金子は手に入らない、噫や良人は午餐を食べないで、一生懸命奔走して居るであらう、吁々氣の毒だ、これと云ふのも私があゝ云ふ剛慾な親を持つて居るからだ、いくら肉親の父子でないとは云へ、金子が出來ねば連れて歸るとは、何たる無情な言方だらう、思へば因果な人の手に育てられたものだ、と、良人の苦心を憫み、養父の無情を怨み、無心の幼兒を抱き締めて、悔し涙に咽ぶのであつた、かゝる間に、四時も過ぎ五時、七時、やがて十時近くなつたけれど、まだ歸つて來ない、た縫は良人の身を案ずると共に、養父が來はせぬか、と足駄の音のする度每に、良人か養父かと身を剌まるゝ如く感じながら、起つ居つ心配して居ると、午後から雪模樣であつた空天は風さへ加つて、どうやら降り出したと見へはら／＼と戶を打つ音が聞ゆる、すると十時の時計が打つてやゝ間した頃、表格子が密かに開いたので養父か良夫かと、騷立つ胸を押へもあへず玄關に出て見れば、養父にはあらで待詫た良人邦男が、帽子と云はず、衣物と云はず、身體中綿を着た如く眞白になつて、茫然と庭に立つて居る。

『たやッ、まあ大變な雪ですこと、嘸れ寒かつたでございませう、只今拂つて上げますから、些と然うして居らつしやい。』

と、急ぎ打拂を取出して、身體の雪を拂ひ落し、

『さあ、火鉢に火が能く燧つてゐます、早く夜服りなさいましそして湯もくら／＼沸いて居ますから、直に御飯を召上りなさいまし、そうしたら、いくらか暖まつて來るでせう。』

と、優しく迎へるのであるが、山田は悄然として物をも言はず、玄關に平坦と腰を下ろして、腹の底から込上げたやうな深いそうな息を吐くのであつた



# ●漢城便り

▲浪浪閣主人も本日は仁川着の由に候へば定めて出迎人の多からんことゝ存候義理で行く人政略で行く人サテは米鹽の爲に行く人中々に多種多樣ならんと被存候併し主人一と度眠りて此出迎人中より幾人の非送者若しくは展望者を出さんかは餘程の疑問に御座候

▲日本郵船會社は太西洋に新航路を開始せんと致居候由世界的日本としては可然計畫かと被存候我膨脹に對する列國の嫉視も我實力の發現が彼等の豫想以上に及ぶときは雲散霧消すべきは必然に御座候勝てば乃ち官軍たるは興國國民の信條として忘るべからざるものと存候

▲桑港に於ける韓人革命俱樂部は彼のハルバルトの腦中より生出れたるものと存候其第一着の事業がステーブンス氏に向ひたりとすれば第二着はラッド博士ならんか兎に角物騷千萬なる次第に有之候記者の見を以てすればハルバルトは善人には無之候併し彼としてはファンアヤートを眞似居り候やも相知れ不申候

▲米國は革命黨員無政黨員の集合所に有之候南米中米ロシヤ、ポーランド其他あらゆる者を網羅致居候其中異形を放ち居るは支那の革命黨員なる明朝の遺臣に御座候今や李朝の遺臣を以て任ずる韓人新たに看板を掲げ候由何しろ革命黨員大繁昌の体に見受け申候

▲米人は妙な處に力瘤を入れる國民に御座候韓人が自由を叫び獨立を唱ふるに至てはヤンキー式好奇心を以て彼等に同情の涙がれずとも限り不申候茲に至て韓人は益々増長し我に無禮を働く樣に相成り可申候

▲此頃內地にては節婦の旌表せらるゝ者數多有之候由至極慶ばしき事に存候只茲に一の遺憾なるは孝女中には隨分美人も有之候得共節婦の大抵醜婦に因て代表せらるゝ事に御座候記者は只の一人にても宜敷美人の節婦を發見致し度希望に候

▲昨日は水原農林學校に於て卒業式擧行相成候記者は法律や文學の智識の韓土に普及せんよりは農林の智識の普及せんことを絕對に希望する者に御座候

▲埃及の寶庫はナイル河に有之候クロマーは埃及に於ける保護政治の第一着にナイル河を整理致候韓國保護政治の功は農林智識の普及を待ちて赭山瘠田を寶庫と變ずべきものと被存候

▲幸介本田博士が名利を捨てゝ水原に隱れ勸業模範場や農林學校の事業に精力を傾つゝあるは記者の感謝するところに有之候浮華を離れたる韓國經營は水原の叢中より出でゝ遂て世人を首肯せしむるに至ると愚察致候

## 妄聽妄言（上） 平凡漢

▲人あり曰く、統監府の高等官を手腕なきものゝ如くいふは誤なり、日本に於ての腕利を擢拔したるものなりと、僕曰く足下の言ふ所の如し、腕利の揃なり決して、頭腦利にあらざるなり、然り腕利なるが故に法令を作るに上手なり、規則を編むに上手なり、全く腕利ならざれば能はず、刀筆の吏とは腕利のことなり、

▲其腕利たる連中の頭顱は、鶴原君を筆頭として、石塚、鍋島、木內、倉富、荒井、小宮、國の諸君也、見渡す限り甚だ失敬なれども、將來大臣たるべき器を見出すに若しむ、頭腦利きを見出さず、成程腕利の撰拔ならむ、統監府は手腕家の淵叢なり、

▲多頭政治も困るが、腕斗りの政治も厄介なり、腕の政治は杓子定規なり、世に細嚢論とは是なり、腕の人のすることは融通が利かぬ、頭腦の人のすることは融通が利き過る、今の統監政治は何れを表彰せるや、

▲統監政治は伊藤公の鵺的政策と、腕利組の法令制作の發現したるものなり、其反映の顯著なる、其面を明鏡に照せるが如し、伊藤公及鶴原君以下の面影、統監政治に遺憾なく發揮せらる、

▲鶴原君は怜悧なり、利口にはあらざるなり、智者にあらざるも、敏捷なり、故に人氣を集めることもあるも、直ぐ落つるなり、政治家にあらずして、小走りの利く番頭的なり、伊藤公が政友會の總務委員や統監府の總務長官に用ひたのが間違なり、

▲人あり曰く、鶴原君は理財家なり、小銀行の頭取が適當なりと、僕曰く否、君は理財の人にもあらず、政治家にもあらず、氣の利きたる事務家なり、官吏として適所を求むれば原敬大臣の下に局長たるなり、市長も亦君の適任ならず、會社の重役でなく支配人が恰當ならむ乎、御馳走役には堪能なりと云ふものあり、

▲石塚君は如何、到底鶴原君の怜悧に及ばざるも、眞面目なり、利口の點に於ては却て優さる所あらむ、石塚君には山氣無し、故に人心を收攬することや、自己を廣告することは最も下手なり、故に切々として働く割合には世間より認められず、陣頭に立ち衆を率ひて號令を掛る人にあらず、帷幕に參して使はるゝ人なり、後藤男爵に凌れたる所以も茲にあるなり、

## 東京電報

### ▲ス氏追吊祭

林外相珍田次官米國大使等の發起にて本月十八日築地三一聖堂にて故スチーブンス氏の追悼祭を施行する由

### ▲コッポ博士來朝

獨乙醫學博士コッポ氏六月初旬來朝に付北里醫學博士其の他主となり歡迎の準備に着手せり

### ▲首相の演說

西園寺首相は地方長官招待會に於て韓國の現況を說き更に同國の富源を開發し拓殖を奬勵せんがため政府は是れが計畫をなせり其の實行に就きては諸君の盡力を要すと演說せり

## 各地電報

### ▲統監の着仁期

伊藤統監の坐乘せる軍艦は十六日午後三時仁川に着する豫定なり（以上十四日發）

### ▲賊魁の歸順

黃海道南部を根據としたる賊魁韓京玉は部下約三百餘名を率ひて海州憲兵分遣所へ歸順を申出でたるが第一面は八十名なるを以て歸順式を行ふ由殘餘は逐順行ふべしと

### ▲黃海道の賊狀

別項記載の如く黃海道南部を根據として其暴橫を逞ふして一時猖獗を極めし賊魁韓京玉も既に歸順したるを以て大体に於ては平穩に歸したるも未だ延平島を根據とせる賊魁李乘告部下七八十名のみは歸順せずと云ふ（以上十四日海州發）

### ●伊藤統監の着仁

伊藤統監は愈本日午後一時吾妻より仁川上陸暫時休息の上三時十五分の列車にて入京する豫定に付き曾禰副統監以下は十二時十二分仁川驛着の列車に乘じ下仁出迎の筈なり尙は統監は四時五十一分南大門に着せらるゝ筈なり

### ●皇帝の御運動

皇帝皇后には如例午後二時三十五分秘苑出御六時二十五分還御あらせられたり

### ●法官養成所の近狀

法官養成所に岩間幹事を訪ひて同所の近狀を聞く同所は從來修業年限二箇年なりしを本年より三箇年に改正せられたるものにして目下三年生六十名一年生五十二名あり二年生は新學則實施の過後期に屬する生徒にして本年十二月を以て卒業せしむるもの一年級は新學則により三月末募集し百三十三名の應募者中より試驗を以て採用したるものにして三年間に法官たるに適する資格を養成するものなり尙本年より別に豫科を設け目下生徒募集中にして年齡十七歲より二十三歲迄の者を試驗を以て採用し一年間日語、數學、論理學、法學通論、地理、歷史體操を教授し本科に編入する筈なり而して從來同所は兩班の子弟のみ就學せしも近來は兩班の外農商工の各階級を通じて入學し先天的に理窟を好む韓國民には法律學の研究は其の性質に適するもの如く學生一般に修學に熱心にして殊に韓國裁判制度の改革は彼等を刺激し前途に光明を認めつゝ研究に努め居り又教室に於ける法理上或は裁判手續上の質問の如き時に耳を傾くるに足るものあり尙時々開催する擬法庭の如き成績良好なりと云ふ昨年末卒業したる二十三名の中現に官途に就ける者の外は新裁判所の開始と共に先づ書記に採用せられ成蹟の良好なる者より漸次法官に登用せらるゝ事となり居れり因みに同所長野澤氏は本月六日歸朝し約一箇月の豫定にて歸任すべしと

### ●韓國金融組合の現狀

韓國地方金融組合の設立せられたる箇所其組合人員並に目下設立準備中のもの左如し

| 組合名 | 組合人員 | 組合名 | 組合人員 |
|---|---|---|---|
| 光州 | 二九七 | 羅州 | 六八六 |
| 靈岩 | 三一五 | 順天 | 一、四五一 |
| 濟州 | 一七二 | 全州 | 七五七 |
| 南原 | 未詳 | 晉州 | 四一九 |
| 密陽 | 八三〇 | 昌原 | 三九四 |
| 公州 | 一、三〇八 | 鴻山 | 七三二 |
| 洪州 | 一、三六四 | 淸州 | 二五一 |
| 水原 | 一、四二九 | 開城 | 二三〇 |
| 松禾 | 未詳 | 瑞興 | 未詳 |
| 義州 | 四五五 | 江界 | 二四三 |
| 平壤 | 四五九 | 安州 | 三四四 |
| 德川 | 四〇 | 尙州 | 二一九 |
| 慶州 | 二四〇 | 星州 | 二八〇 |
| 江陵 | 未詳 | 原州 | 未詳 |
| 咸興 | 同 | 鏡城 | 同 |

（以上既設）

南陽、安岳、瓮津、成川、江西、北靑、永興、天安、瑞山、蔚山、安東（以上設立準備中）

### ●漢江對岸の暴徒後報

漢江の對岸なる果川郡蘆宗里に暴徒三十二名現はれ村民を脅迫して掠奪を擅にせんとすとの急報に接せしかば西部警察署長は早速所轄龍山分署に命を下して日巡査六名韓巡査五名を討伐に從事せしめたる記事は一昨日報道し置きたるが其の後の情報を聞くに一昨日二時頃龍山警察隊の一行が目的地に出向したるときは既でに龍山守備隊に於て早くも彼等を擊攘せし後なりしかば賊の集影だも認むる能はざりしが其の際同守備隊將校等の言に賊の逃走せしより未だ程を經ず道程にしなば二里位のものならんが幸ひ警察の一隊も來り合したるものなれば是より二派に分れ彼等が逃走せし道を迎りて追擊を試みるも妙ならんとのことに直ちに二隊を組織して追蹤したるも却々蹤跡に尋ぬるに難く終に其の儘引き返へせしが彼等は其の際武器としては何物も所持せず四散後村民に混入せし故何等搜索すべき手寄りなく非常なる困難を極めたりと當局者は語れり

### ●暴徒討伐情報（軍司令部着）

△三月二十一日黃河守備隊より裁寧に分遣の下士卒一名は銀波西北方の地に於て約百五十の賊と遭遇し其一を殪し二を傷く

△光州守備隊高松騎兵中尉以下七騎は邑西南三里タンヨクに於て約四十の賊を攻擊し其十一を殪し潰亂せしむ銃丸を鹵獲す

△四月八日賊徒慶南陝川巡査駐在所を襲ひたるの報に接し九日晉州守備隊より派遣せる上等兵以下六名は十一日午後三時嘉郡天皇峙に於て約四十の賊を急襲し是を西北方に潰亂せしむ賊の死六負傷十を下らず火繩銃六五彈藥若干を鹵獲す

△慶尙北道慶州守備隊より派遣せる上等兵以下七名は四月十日祇林寺西方高地を占領せる約五十の賊を攻擊し交戰二時間の後突擊に移り西北方に潰亂せしむ賊の死十九負傷二十銃二十喇叭一火藥被服若干を鹵獲す

△光州守備隊より出せる宮澤騎兵軍曹以下五名は四月十一日午前九時京堂里に於て賊十七を攻擊し首魁金大張を全滅せしむ銃七刀一雜品若干を鹵獲す

### ●賊魁李元五の所在

全羅北道益山郡を根據として部下二百有餘名を有し各地方に暴橫せる賊魁李元五は近來其生地冠洞里（益山より三里附近）に隱住し居るの情報に接せる益山分遣所は之が內偵の爲め二名を九日午前出張せしめたるに此面德洞に於て賊七八名と全州警察巡査と討代中に出會し共に之を擊退せり賊の傷者一名あり取調の結果傷者は李元五の部下と稱し九日同行者八名にして冠洞里に向つて歸途巡査と遭遇せし旨及尙は李元五の部下は二百餘名にして各銃及劍を所持し火藥及實彈は製造する旨を述ぶ彈元五は目下何れに在るを知らず然れども其妾宅の冠洞里附近サンボ朴光彥の宅に預けあるを以て九日は妾宅に歸るならんと云ふを以て搜索せし處妾宅は家人已に逃走して得る處なく更に李元五の行衛不明なりと云ふ

### ●愛國婦人會の光景

韓國に於ける愛國婦人會が單に日韓軍人及遺家族の慰問救護に務むるのみならず日韓人間の親睦融和を謀りて相互の啓發に資するの機關として成立擴張せられつゝあることは世人の認識する所なるが同會本部にては昌宮德德壽宮に於ては韓國皇太子殿下御下賜の活動寫眞其他のものを兩陛下の御覽に供したるが今般宮內府大臣より鶴原本部長宛左の感謝狀を贈呈し來れる由

敬啓頃日は貴會慈善の意を以て巧妙なる活動寫眞を映寫せられ我兩宮殿下御覽遊ばされ御嘉賞の聖慮を下されたるにより本大臣謹で傳達し以て感謝の至意を表し候に付此段御諒承可被下候

四月十三日 大勳宮內府大臣 李允用

愛國婦人會韓國本部長鶴原誠子殿

### ●仁川稅關の改正稅率

昨年九月二十一日仁川稅關にて豫告し十二月二十日より稅率を改正することにしたるが諸種の事情ありたる爲め本年三月二十一日まで延期し其の幾分を更に改正して發布したるが昨年五月二十一日に豫告したる改正稅率には當該稅表項目を計しあらざりしかば稅率に就いて不服を稱ふるもの稀にありたるを以て今回仁川稅關にて幾に豫告したる分のみに對し再昨日各品目に對する該當稅表の項目を發表したり即ち

| 品目 | 豫告の稅率 | 該當稅目表項目 |
|---|---|---|
| 一香味各種 | 八分 | 香味料各種 |
| 一飴（菓子） | 一割 | 糖菓類各種 |
| 一林檎酒 | 八分 | 林檎酒 |
| 日本酒及支那酒 | 八分 | 日本酒及支那酒 |
| 一熟皮（着色したる者） | 一割 | 熟皮上等ものゝ若しくは押形模樣付又は着手したるもの |
| 一毛皮各種の上等の者 | 一割五分 | 上等毛皮（貂、鼬）虎、海貂、永獺、海狸等の如き |
| 一象牙 | 八分 | 象牙（製品と否とを分たず） |
| 一人髮 | 八分 | 人髮 |
| 一撒里支爾酸 | 七分五厘 | 化學藥各種 |
| 一漂白粉 | 同 | 同 |
| 一醬付油 | 八分 | 醬付油 |
| 一洋紅 | 八分 | 洋紅 |
| 一朱 | 同 | |
| 一姜黃 | 七分五厘 | 染料、彩料、塗料及同材料 |
| 一紅花 | 同 | 同 |
| 一絹製衣類 | 八分 | 絹製衣類 |
| 一古新聞 | 五分 | 下等紙 |
| 一印類 | | 相當の項を適用す |
| 一陶磁器（上等品） | 八分 | 陶磁器（上等品） |
| 一貨車及小册 | 同 | 貨車及小册 |
| 一家具類（臺箱及鏡台を除く） | 同 | 家具類各種 |
| 一屛風 | 同 | 同 |

以下次號

### ●京城麥酒界の暗鬪

キリンビールが本年より韓國に飛躍を試みるべく既に京仁兩地に根據を定め鋭意販路の擴張に努め居れることは本紙の屢々報導せる如くなるが大日本麥酒會社側にても敢て競爭と云ふにはあらざるも時機に依りては相當の手段を講ずる筈にて同社輸出係長曾根高詳氏は本日を以つて入京する豫定なりと

### ●仁唐航路の好結果

仁川唐津間の航路は昨月上旬より試驗的に開始し今日までに既に二航海をなしたるが各航とも成績頗る良好にして往航には火炭陶器、石炭を滿載して入港し歸港にも二航共大豆を滿載したるを以て第三航よりは定期航路となし唐津を起點として終點を更に鎭南浦まで延長したりと云ふ

### ●仁川民團の租外地稅

仁川民團に於ては昨年度より租外地稅なるものを徵することゝせるが關係者一同は民團規定の稅率を餘り高率なりとしてこれが減額を交涉する處ありたるも民團に於ては既に豫算に編入せることゝて如何とも致し方なしと回答したるを以て近々關係者約百名の內代表者六十餘名集合して其善後策に就き大に議する處あるべしと

### ●道路調査委員會

道路改築調査委員和田常市、中村再造、森勝次、濱野德次郞の諸氏は熊谷民長、仁科助役同道にて囑託技師前野峰士民を伺行し昨日道路改築線を實地踏査の爲め現場に出張し午後二時より引續き委員會を開き之れが調査をなせり

### ●扭峴道路の完成

過般來開鑿工事取急ぎ中なりし仁川扭峴道路も略完成せるを以つて昨日理事官は金府尹と共に實地視察に赴けり

### ●國旗揭揚の通牒

本日は伊藤統監歸任せらるゝに付京城居留民團役所に於ては統監南大門着車同時に敬意を表する爲め煙花十發を打揚げ居留民一般は各戸國旗を揭揚し敬意を表すべき旨一般に通牒せり

### ●高等女學校事務所移轉

是迄民團役所樓上に設けられたる高等女學校事務所は昨日より南大門內なる高等女學校新築校舍に移轉せり

### ●グチ漁の好況

グチ漁三百隻が過日仁川より延手島附近に出漁したる以來未だ何等の通知に接せざれども群山沖隔音島附近に於けるグチ漁獵は目下大獵の由にて本日か明日仁川に入港すべき小富士丸にて數萬匹のグチ魚を仁川に揚陸すべしと云ふ

### ●全羅北道高山附近の狀況

四月二日高…山分遣所開設以來日淺く一般の狀況を…する能はずと雖も高山地方人民の大部…分は一進會員なるが爲め暴徒と正反對の位…置にあり日本軍隊の駐屯せざるに於ては寸…時も枕を高め眠る能はずして近在の一進會…員の多くは斷髮せるため兩親妻子の儀に泣…くも顧みる暇なく高い邑內に集合僅かに…の如き四五名の守備騎兵を賴み居りた…樣にて我が荷物監視兵の到着するや騎…全州に引揚げ其後直ちに所長以下五名…し高山に永住することを勸めしに彼等…は喜欣安堵せしものゝ如しと尙停止兵…りし騎兵も土民の感情を損せしとな…へ頗る敬慕され評判良好なり且所員到…時は多數の土民郡衙前に集合し三年制…袴を着するを憲兵と言ひ八字髭茶褐色…袴を着するを騎兵と誤見し居れり然れ…孰れも日本軍隊駐屯せざるに於ては一…員は勿論其他の人民も暴徒の橫行に堪…一日も安堵して生業に就く能はず因て…共分遣所開設は歡迎せられ居ると云ふ

### ●近事片々

▲統監● も愈々今日仁川着と云ふこと…
方振で韓の風光山川に接し如何の感か…
▲長白● 山麓埋骨の覺悟ある公に取て…
國の感あらむ韓の山川亦喜んで公を迎…
▲韓內● 閣員大師殿下を迎て如何に歡…
持を謀らむとするや囁や謀議に餘念無…
▲完用● 元來智囊に富む兄允用亦劣ら…
伊藤策に頭日來腐心せりと聞く妙案閣…
▲宋農● 相公に謀り頻に口說き勢力扶…
腐心して完用に出拔れては百日說法屁…
▲統監● 歸任漢城政客皆色氣づき由…
爺さんが公を口說かむと待構る誰か勝か…
▲留守● 半歲政界の餓鬼共小刀細工を…
に弄だ結果歸るが否やいの〳〵を極…
▲見渡● す所軍容整々白旗靜なるは完…
▲此際● 渠は得意の技倆を揮はむ公の所…
▲完用● は陰に暴徒と氣脈を通ずとの…
るも豈夫嘘ならむ併し斯る事をやり…
▲貞洞● 雲深き處手ぐすね引て統監…
待受けたる大立者ありと對顏や面白…
▲卿が● 半白の髭を脫の爲に青白に…
洛せ掛たる手際で亦善人なる公を操…
▲此相● 撲こそ見物なれ一上一下虛…
何れ劣らぬ橫綱相撲團扇は何れに揚…
▲大統● 領ル氏無政府黨撲滅の法律…
議會に要求せりと斯る事は却て蛇…
▲ル氏● の行動は總て帝國主義の發…
米國憲法の礎動くの時早晩來るべき…
▲獨帝● が墺國皇室へ強制的訪問を…
する問題喧しくなる兎角獨帝は騷…
▲獨帝● の動く處波瀾起り問題とな…
不絕世界の新聞に材料を提供しつゝ…
▲伊公● 歸任に就て本松餅馬送別の…
作て送る錦重ねて早く歸り來れとの…
▲其歌● 近來の傑作と持て囃され花柳…
論はる公の動く處必ず花柳界の問題…
▲重任● を負て赴任するに阿嬌連の問題…
時も多し英雄好色と云ふ者の餘り不…

●夜の南山

昨春櫻花に誘はれつゝ久し振にて南山に遊ぶ、紀念碑の裏手を登れば、昨夏以來見參せざりし小池も小亭も共同椅子も健在なり世には徒然の人も多しと見へ、共同椅子は皆先客さま、余が占領すべき餘地なきまゝ夜櫻此處と徐ろ歩きしぬ。本願寺裏手より微かに琴の音吹く風に送られて聞へいともうれしく、其彈ずる主の白魚の如き指より庇護優にやさしき姿などの想像は、うれかられて心愛なく廻りて恍惚たる折柄、突然高樺に詩を吟ずるものあり、ふと其方を見れば何ぞ圖らん破れる帽子にて顔はさだかに分らねど、世の荒浪に揉まれて逆境に立てると思はるゝ屈強の壯夫なりけり
[illegible]懷欲挽是斯遊何山月傾
[illegible]感嘆一句養定乾坤氣抱
茫然在旅樓
と三番繰り返し吟ずれば、斯壯夫亦た燕趙悲歌の徒か、熟く〳〵漢城浪士連の境涯を思ひ、今昔の感に堪へずして佇立せると、下の方より猥々男女入亂れつ戯れ來る一隊あり、共同椅子に他の人の居るにもかゝはらず、之れに割込む無遠慮さ、法界節吼節のストライキを百姓聲に怒り立てる、稍淋なりし夜の南山も選等の爲に蹂躙され、かれ等は言はずと知れた京城名物の淫賣婦と其客なり、此猥々連はうるさしと思ひけむも何となく清興を妨げられつゝ立去りぬ、坂の下より愛らしき聲にて、青葉茂れる櫻井の楠公歌を謠ひつゝ來る、子供三人と其父らしき八字髭の紳士、晩餐の微醉に乘じて子供を連れての散歩とぞ見受けぬ。其嬉々として戯るゝ實に子供は神である、之を以て見るを見て浮世の事を忘れる、如何に辛き世でも、生産的のみで他は悉く無趣味となる、一家に小兒と老人、此不生産的のものがあつて始めて調和される。（未完）

●江華島方面の匪徒

本月五日午後十時銃器を携帶せる二名の強盜江華郡西面東坊里方鉄鋭方に來り自ら義兵と稱し應分の軍用金を調達すべく若し之れに應せざれば銃殺すべしと強迫し金二十圓を強奪し去り其後七日午後十時頃銃器携帶せる三名の賊再び來り軍用金三百圓調達を迫りたるも同人は所持せずとて頑に哀を乞ひたるに正午十二時頃同家を去り同郡仁峴里に向ひ出發せり又本月六日午後九時頃の爐盜各銃劍を携へ同郡道面長蔡務源方に來り自分は義兵なるが故に軍用金三百圓調達すべしと強迫せるも其目的を達せず同十一時頃同家を去り栗頭浦より船に乗り何れにか逃走せり而して七名中二名は戴冠者五名は覆面者なりしと又本月八日午前三時頃銃器○帶の賊三名同郡仁峴里[illegible]淳鎬方に來り義兵と稱し軍用金三百圓調達方を強迫せしも其目的を達せず同四時頃同家を去り不恐浦より船に乗り逃亡せるが其筋に於ては目下行衞搜索中

●旭町の火事　（便所の燈火より）

一昨十四日の夜十一時頃泥峴方面に方つて炎々と赤龍の昇天するより唯事ならずと見て居る内に警鐘の亂打せらるゝにガスハ火事よと驅けつけ見れば旭町三丁目五十六番戸内閣書記官法學士築山直彦氏の邸宅が既に半燒し此の邊は人家稠密し居ることゝて近接せる各戸は家財の取片付けに右往左往し其の混雜は言語の盡くす所にあらず斯る内に京城消防組來り續いて皇宮警察の消防組五、五十一團隊の消防組、後れては濟國警察署の消防組も來り時刻の尙は早くして人々の未だ寢に就かざりし内のことゝて早くも是れが出揃ひたると幸に風伯の祟りなかりし爲めに僅かに壁一重を隔てたる開進亭の如きも類燒の難を免かれたるも築山氏の邸に接近する巡査上原尙二氏の宅は瞬く間に龍蛇の舐むる所となりて憐れ灰燼に歸し十二時に至つて漸く鎭火したり其原因に就ては暴徒の放火ならんなど取り〳〵の風說を爲せども種々調査の結果築山氏の下婢吉岡モト（二十）が午後七時頃座敷の便所に洋燈を點火し其まゝ放任し寢に就きたるといふ出火の場所が其の便所なりしより察するに其の洋燈の火が板塀に燃え移り斯る大事に至りしものゝ如し而して其の損害數は未だ詳細に知るを得ざるも築山上原兩家の家屋及び家財を合算すれば二千八百五十圓を下らずといふ

●西署の出火

別項記載の如く一昨夜午後十一時旭町二丁目に火災あるとの事なりしかば西部警察署詰久保田巡査は李警部と共に出張し消防に盡力せしが十二時に至りて漸く鎭火せしを以て歸署に就きたるに這は又如何に此の度は自己の管内新橋方面にムラ〳〵と火焰の揚がるを發見せしかば早速現場に驅け付けしに折柄西大門外砲兵隊の兵士等必死となりて消防に力を注ぎ居りしより程なく一軒丈にて鎭火せしが場所は西署盤松坊百十一統四戸貨商邊均正（三十）方にて原因は溫突の側に積みありし松葉に溫突の火が移り夫れより燃え上りたるものなりと又た損害は却々に莫大なるものにて品物としては白米二十俵此代金百六十圓莨三百圓等なりと

●櫻樹の植付

京城居留民團役所に於て倭城臺公園に大和櫻を植付ることは既報の如くなるが同櫻苗木七百本は二三日前内地より到着せしを以て一昨日より之れが植付に着手せりと云ふ

●銃獵者の注意

京城門外各部落には匪賊の出沒未だ全く跡を絕つに至らず故に偶々銃獵者等の發砲するものあるや良民は賊襲と誤認し周章狼狽避難に狂奔す加之之等銃聲は却て暴徒の來襲を挑發し既往之が爲め慘禍を被りたる者尠からず然れば銃獵者たるもの當分の間城外に出獵し自ら不時の奇禍を買ひ或は公安を害する等の不覺なき樣此際特に注意すべしと警視廳より告諭ありたり

●米國領事館の不都合

十三日午後六時過重明殿構内を巡查が巡回の際同殿隣に接の米國領事館飼養の小羊重明殿裏元太皇帝御座處たりし漱照堂屋上を駈廻り之を追ひ返さん爲め同館雇淸國人は諒りに山羊に投石しありしが誤つて重明殿裏硝子窓を破壞したるを發見し同巡查は直に之を差止め猥りに宮庭内に投石するは危險なるのみならず甚だ不都合なる旨注意し置きたるが該山羊は由來放飼し居るを以て屢次一間餘の墻壁を飛び越て宮庭に侵入し冤壁を損し又は庭苑の草木を害し甚だ不都合に就き宮中警部より九日領事館に注意を與へ置きたるにも拘らず又々十三日の如き不都合ありとは苦々しき事共なり

●宮中苑丁の亂暴

中署管内觀仁坊寺洞鄭致興（三十）は德壽宮苑丁として宮殿門票交附を受け常に宮中に出入し居りしが十三日午後六時甚しく酩酊して周衣の紐を解き且つ帽子は傾きて橫になるなど甚だ不体裁の儘永成門へ入門せんとするを以て同門警護の巡查韓俊一は醉体を顯はして宮中に入らんとするは甚だ不都合に付醉醒を待つて後ち入門すべき旨を諭したるに聞き入れざるのみならずキサマは何の理由なつて拒止むるや畜生などゝ暴言を放ちて巡查を侮辱し門前に於て大聲喧嘩したるなど其行爲は刑法使酒律に依つて訊問課に告發せられたり

●濟度し難き愚物（中）

張が突如の預金取り戻しの談判に成は不審の眉を顰め成程疑きに預つた金子は確かに貴殿のものなればお返し下されとあらば何時にてもお返し申さんも夫れでは前に述べた貴殿のお言葉とはまるで變ふ道理拙者等とても折角の貴殿の御相談に心を寄せたればこそ假令現金ならずとも大枚六百圓といふ手形を心配いたせし譯イヤサ何もお互知り邊の間柄にて恩被せがましき事を言ふにはあらねどまだ貴殿が京城の土地に着きてより僅か三日か四日か經つか經たぬ間に左樣に變心されては前途の程も氣遣はるゝにつけても今一度最初の御志念通り互ひに力を協せ心を共にして事を計られては如何にと誠意を籠めたる言葉もて懇々と說き諭めしに張は暫時首を垂れしまゝ腕拱きて默然たりしが漸やありて顏を擧げ貴殿のお心盡しの程は何重にも難有謝するに辭なき程なれど實は少しく心に思ふ節のありて斯くは不本意にも御懇情に背く次第定めて薄志弱行な奴輕躁な男と心の中にては御侮辱もあらんも他日何れの時かはた氷釋にもなるべければ呉々も不惡思召ありたく又例の紛失せし二百圓の手形に就ては貴殿逹れ兩人も御覽の通り大韓每日申報に廣告しあるべければ不遠拾得者の現はれ來らんことも思ふべければもしも分らずとあれば拙者に於て責任を負ふ程に露程御懸念には及ばずイヤサ種々と煩はせし御心配と御厄介の數々何ともお禮の申しやうも御座なく夫れでは之れにてお別れいたすべき程に例の金子二百八十圓をお戻しありたくと請求せしに成は之言葉は一々御尤もなれど拙者一人の取り計ひにも行かざれば一應此れなる徐氏へ談合すべきにと膝を回へして徐に計らんとせしに徐はさも憎々し氣の人相に齒を剝き出し眼を瞋らし果ては聲荒らげながらナニ談合も糞も要つたものか二百八十圓の金子は乍憚一旦此方で預つたもの紛失せし二百圓の手形が發見さるれば可しさもなくは件の金子は一厘にても渡す事は叶はずマーナント張殿世間の理屈がさうでは御座らぬかと長い煙管で溫突を叩きながらの談義張も思はず其の意外なる返事の血も淚かは愚か世間普通の條理をさへ解せざる不法の言葉に茫然として唯々呆るゝ許りなりしが軈てより斯かる事のあるべしと心に期したる事とて左こそは徹かす後を總かんとする徐の言葉を遮り中で遮ぎりてイヤお話はスッカリ判りました自分の預けた金子を戻して貰ふと云ふに貴殿が夫のやうな御所存なれば拙者の方にも考へが御座る左樣ならと思召されと許りに席を立ち其の足西部警察署へと訴へ出でたり

▲▲▲小說豫告▼▼▼

引き續き江湖の喝采を博しつゝある小說『糸のみだれ』は名殘り惜くも愛數日の中に全篇を了り之が完結を告げんとす、依て本紙は之に代ふるに彼の帝都に於て鸞肆絢爛の筆と怪奇峭拔の想とを以て、其の盛名を馳せる新進作家篠原嶺葉氏に託し「新不如歸」なる長篇を掲げんとす、思ふに其の優婉にして情致に富み流麗にして盤上玉を轉がすが如き筆致は以て八道の文壇を震撼すべく、其の迂餘曲節人情の機微を穿ち、世相の眞髓を究め、情緒纏綿、波瀾あり、抑揚あるの趣向は以て滿韓の士女を惱殺すべし、若し夫れ之が筋書の大要に至りては今爰に豫告せざるが却つて當座の花、請ふ須らく刮目して揭載の日を俟ち、其の内容と實質とに就て徵せられんことを

▲▲▲小說豫告▼▼▼

●焦熱地獄か

咸鏡北道鏡城部羅南洞と云ふ所に地中に火の燃へつゝあるを發見したりとこれを發見したるは或日樹木を移植したるに忽ち燒け焦げたるを以て不思議に感じ水の入りたる器物を其地上に置きたるに之れ又た忽ちにして沸湯するに至りたりとのことなるが之れ所謂る焦熱地獄と云ふべきか

●消防夫の負傷

別項旭町の出火につきて京城第二消防組の消防手下間顯太郎は火事よと聞くより先登して大に盡力する所ありしが是れが爲めに右手の掌上に輕傷を負ひたりと

●何れも罰金

山川留藏、近藤音次郎、花田勉造、小林謙明、曾根田梅吉等が其の筋の允許を得ずして本町六丁目に料理職人組合事務所なるものを設け去る二月十五日より三月三日まで貸席間の各料理職人に對し組合趣旨書と記せる一篇の文書を配布し同組合に加入方を勸誘し居れること發覺し其の筋の取調を受けつゝあることは既報せしが一昨十四日保安規則違犯として山川近藤花田の三名は罰金三圓宛に曾根田は同四圓に處分せられ小林は無罪を言渡されたり△また中丸樺吉といへる者は一定の職業なく賭博を營業の如くなし居るより客年八月八日京城理事廳理事官より二十日以内に正業に就くべきことを命ぜられたるも今尙ごろつき居れるを以て罰金三圓に處分せられたり

●韓人郵便所員の爲換窃取

京城西署司醞洞二十七統一戸韓震金三男韓相益（二十）は本年一月廿一日黃海道甕津郡郵便取扱處在勤中金一百圓及四十圓の爲替券を窃取し該金騙取の上逃走したるが同人は江華島郵便所に親友ある趣なれば或は其方に立寄りはせずやとの嫌疑により目下取調中

●ヨボの窃盜

去る十四日午後七時夜旭町三丁目池野源次の工場に忠淸道韓山郡北面の撈軍池基永（四十）といふが忍び入つて板屑を窃取し逃走せんとする所を同工場の大工尾本和助が認め引捕へて警察署へ連れ行き引渡したり

# 船客運賃値下

◎四月一日ヨリ左之通三等船客運賃ヲ引下ゲ申候

仁川ヨリ
- 一神戸 大阪行　金八圓
- 一門司下ノ關行　金六圓
- 一宇品行　金七圓
- 一長崎行　金七圓
- 一鎭南浦行　金三圓
- 一龍岩浦新義州安東縣行　金五圓

京城ヨリ（京仁間汽車賃含ム）
- 一神戸 大阪行　金八圓五十錢
- 一門司下ノ關行　金六圓五十錢
- 一宇品行　金七圓五十錢
- 一長崎行　金七圓五十錢

◉御注意　團体ニハ特別ノ割引アリ　往復切符ハ復航二割引

大阪商船株式會社仁川支店（電話一一二番）（同二一〇番）

京城本町二丁目角　林田商店切符發賣所（電話六五番）

京城南大門通　慶田組出張所（電話九四九番）

# 夏物新着荷大賣出し

空氣呼鈴並に室内電話

斬新流行の洋傘やねくたい其の他歐米雜貨各種荷着致し候間御觀覽旁々當店へ御來店有られん事偏に乞願奉り候敬具

韓國京城本町六丁目

歐米雜貨商　中塚支店

營業科目

活版活字鑄造　石版銅版　木版彫刻　コロタイプ版　寫眞版　諸帳簿　製本裝釘

今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ新築落成仕候間ノ進營業致候間倍舊御愛顧之程奉願上候也

日韓印刷株式會社

本社　京城明治町三丁目　電話（三二三番）

東京出張所　東京京橋區南鍋町一ノ十　電話新橋三九六二番

西洋御料理宴會

日本人倶樂部

京城南山町三丁目電話（一二三番）

一開業廣告

◯内科　◯外科　◯眼科　◯婦人科　◯小兒科　◯花柳病科

今般左記之處に於て開業致し懇切と叮嚀を旨とし一般患者の診療に應す

京城南大門外御成町

吉田病院

院主　吉田三省

---

謹告

エジプト巻及マニラ葉巻其他煙草類各種　西洋雜貨洋酒洋菓子並に支那糖菓及紅茶

謹告在韓清國人

大連　安徽　頭彩　金壹萬圓　第三十次（陰暦四月二十日 清暦三月二十日）開彩

湖北　頭彩　金五萬圓　第十六次（陰暦四月廿七日 清暦三月廿七日）

江南　頭彩　金壹萬圓　第七十五次（陰暦四月十六日 清暦三月十六日）開彩

定價

湖北彩票全紙金七圓五拾錢　江南彩票全紙金七圓　大連彩票全紙金壹圓參拾錢　安徽彩票全紙金壹圓參拾錢　小切八拾錢　小切七拾五錢

西洋雜貨商　源源號

京城水漂橋二宮街

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金　參百萬圓

積立及繰越金　八拾萬圓

株式會社　十八銀行京城支店

京城南大門通（電話四二〇）

本店　長崎市築町

支店出張所　京城、仁川、木浦、釜山、群山、元山、馬山、羅州　韓國

大阪、熊本、佐世保、厳原、五島、壹岐　日本

其他日本韓國樞要の地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金　一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日歩壹錢四厘）

長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支）

席貸

待合

電話一四七番

齒科全般の治療

米國最新式義齒

京城本町六丁目（蕎そば横町）

米國齒科醫學博士　女醫　中村安子

張店御披露

ほの暖き今日此頃盛りを競ふ桃櫻野邊の千草も色増して遊ぶ胡蝶の面白さアレよコレよと枝好み今般當樓こては香り床しき仇花の數限りなく取揃へ粹樣方へ御高覽に供へ可申候間御散歩旁々御來遊の程希ふものは

京城新町遊廓

大桝屋（電話六二番）

（いろは順）

花桐　花丁子　千代鶴　富次　千年

千鳥　若松　竹葉　梅葉　八重咲

萬代　松葉　文子　小貞　小蝶

貞子　白糸　文字　百代

仲居　すみ　さだ　つる　たか

---

梅毒にて苦む御方は急き一劑試み給へ

速に全治す藥効なき時は返金ず

百人百治　濕血丸　價一圓

しつけ、かんがん、よこね、かんそう、ほねうづき、ようばい、そう、りん病、子宮病、じしつ一切、がん、がさ、るいれき、たいどく等に特効あり

右藥は米國醫科大學教授博士（マンキリン氏）の明治二十五年十月新發明せられし良劑にして輕きは半週り重き病は一二週用ゆれば速に全治す此藥は我日本にありふれたる梅毒藥とは異なり服用して決して口中いためず飮食物に禁止なし就業勤務に妨害なし身体衰弱せず頭髪ぬけず養生中他人は勿論家内のものにも知れる世話なく全治する事保證す但一週間分金一圓

▲賣捌き御望の方は御來車あれ

調劑本店　大阪　松本快活堂

韓國一手販賣　京城新町　松本儀祐

▲到る處の賣藥店にて販賣仕候

植木三十餘種大小數萬本

櫻、海棠、椿ノ如キハ將ニ蕾チ破リツヽアリ

和漢洋草花種子二百餘種アリ

庭園專門家數名設計植樹ノ依頼ニ應ズ

京城東署永禧殿前

京城植物園

一層業務を擴張し敏腕の事務員數名を增聘し迅速且つ懇切に左の事務を取扱ふ

- 一民刑訴訟の鑑定及諸般代書事務
- 一貸金賣掛金等に關する債權取立事務
- 一鑛山及土地の測量製圖並に出願手續
- 一會社組合銀行等の顧問

京城本町一丁目

明治法律學校出身

增本好三郎事務所（電話取次六二四番）

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金三百万圓

本店　大阪市西區北堀江通五丁目

支店　釜山　仁川　平壤　鎭南浦　安東縣

株式會社　第五十八銀行京城支店（電話五八番）

爲替取組先

| | | |
|---|---|---|
| 畿内 | 二十七ヶ所 | |
| 東海道 | 十三ヶ所 | |
| 山陽道 | 七十五ヶ所 | |
| 南海道 | 二十三ヶ所 | |
| 北海道 | 五ヶ所 | |
| 臺灣 | 二ヶ所 | |
| 東海道 | 二十八ヶ所 | |
| 北陸道 | 十ヶ所 | |
| 山陰道 | 三十三ヶ所 | |
| 西海道 | 九ヶ所 | |
| 韓國 | 一ヶ所 | |
| 清國 | | |

會席御料理

並に仕出し

京城三好町歌舞伎座前

筑紫亭

●大勉强廣告●

◯うなき蒲燒　◯會席御料理

◯うなどん　◯親子どんぶり

本町座前大和湯向

きく紋

電話九百五十四番

電話開通九百十八番

疊製造商並に表替

京城本町六丁目

弊店儀各位の御引立を蒙り日増に繁榮に趣き候段難有御禮申上候就ては今回熟練の職工手揃候に付一層勉勵平素の御眷顧に酬ひ可申候間陸續御用命の程伏而奉懇願候　敬白

金崎仁三郎

---

韓國京城

株式會社　第一銀行

電話番號（營業用）一一番（當直用）二二番　（營業用）六二番　國庫生用　度用　分析所用　六二二番

本店　東京市日本橋區兜町

内地支店、出張所　大阪、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町

韓國支店、出張所　仁川、釜山、元山、鎭南浦、群山、平壤、木浦、大邱、開城、咸興、城津、馬山、鏡城、清國安東縣

右爲替取引先あり

はの外内外各地重要なる場所に營業事務に關する御用向は當店營業課長に御相談被下度候

襖新調並ニ張替

表具師　高瀨光榮堂

京城旭町三丁目三ヶ月旅館前

日本澤庵

味噌醬油製造

乾物荒物鑵詰

銘茶食料雜貨

京城本町五丁目

漬物問屋　大上商店（電話二五一番）

拾有八年の實驗

最新學術の應用

京城南山町三丁目

齒科醫　勳六等　楢崎東陽（日本人倶樂部向）

訴訟、鑑定、契約起案、諸願屆、登記書類代書、土地家屋賣買、金錢貸借、電話賣買等の周旋

京城本町一丁目警察署前

明法學士　小川勝平事務所

電話四十一番

日本郵船株式會社

瀛船仁川出帆廣告

（電話十番）

貨物及船客取扱店

仁川海岸通　郡回漕會　電話三九番

京城南大門通　巴商店　電話三〇六番

- ●釜山長崎門司神戸行　山東丸　四月　日　後三時出
- ●群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行　第一オハヨ號　四月廿九日　後四時出
- 　鐵路丸　月　日　後三時出
- ●大連、大沽、牛莊行　高砂丸　五月十四日　前五時出
- 　山東丸　四月廿八日　前五時出
- ●大連、大沽、牛莊行　酒田丸　四月廿三日　後一時出
- ●鎭南浦行　第一オハヨー號　四月廿六日　後三時出
- ●釜山出帆、元山浦鹽行　弘前丸　四月廿二日

御注意　御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送迎可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船繫場ヲ發ス